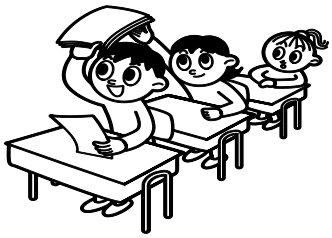
原小だより

横浜市立原小学校
令和７年３月 18 日
学力・学習状況調査版

「横浜市学力・学習状況調査」の結果分析

今年度４月に横浜市一斉に、全学年で実施された「横浜市学力・学習状況調査」の結果を報告いたします。本校の子どもたちの「横浜市学力・学習状況調査」の結果（国語、算数、社会、理科、外国語）を分析し、傾向をとらえ、日頃の指導の工夫改善に努めてきました。各教科の傾向と指導の工夫改善について、お伝えいたします。



各教科の傾向と指導の工夫改善について
〇よくできた点　●努力を要する点　→改善策

[国語]

２年〇問題番号 13 の結果から、前学年の漢字をよく覚えている。

●問題番号１・９の結果から、文学的な文章においても、説明的な文章においても、順序をとらえることが難しい。

→時間を表す語や文に着目したり、物語の変化を追い、登場人物の行動や気持ちの変化に着目したりすることで、順序がとらえられるようになっていくと考えられる。また、そうすることで、内容を理解することにもつながっていくため、授業の中で繰り返し指導していく。

３年〇問題番号５「第１学年に配当されている漢字を使う。」と問題番号１６「第２学年に配当されている漢字を使う。」は、市の平均を少しではあるが超えており、基礎的な学習は身についている。

●問題番号４「登場人物の口調を具体的に想像する。」や問題番号「表紙や題名を見て本を選ぶ。」は、市平均に比べそれぞれ、18.1 ポイント、8.7 ポイント低く、問題を読み取り、そこから思考を広げていくところが難しい。

→物語のあらすじだけでなく、題名、登場人物の行動、その行動にいたる気持ちなどを深く考えたり、話し合ったりする学習を繰り返し指導していく。また、読書をすすめたい。本をたくさん読むことで、文章に慣れ、話の内容など前述の内容をつかむ力がつき、さらには、文章を書く力も向上すると考える。

４年〇問題番号２・３・16・17 の解答状況より、文学的な文章を読み取る際に、登場人物の気持ちや様子を文章表現から想像することができてきている。授業の中で、登場人物の人物像の分析を丁寧に行ったり、場面変化の様子を話し合ったりすることをより多く設定し授業作りをした。

●問題番号 12・13 の解答状況より、説明的な文章での指示語と記述との関係性や、考えとそれを支える事例との関係についての正答率が市の平均を大きく下回っている。

→筆者の主張と事例との関係を結び付けられるように授業を展開したり、板書を工夫したりしていく。また、文学的な文章と説明的な文章の全体の正答率を見ると、説明的な文章についての正答率が低くなっている。また、文章中に出てくる指示語にも着目し、丁寧に読み解く時間を設定した。説明的な文章を扱う単元で、より子どもたちが見通しをもち、主体的に読み解いていきたいと思えるような単元構成を意識したい。また、説明的な文章に触れる機会を増やしていくことも必要であると考える。

５年〇問題番号 20 の結果から、前年度の漢字を書くことができる。

●問題番号 14「ポスターを読んで理解したことに自分の考えをもつ。」の結果から、必要な情報を読み取ることが難しい。

→少ない情報を読み取るだけでなく、それについて自身の思いを常にもつように日頃から学習内容について考えをもつことができるような学習方法を設定した。

●問題番号５「辞書や事典の使い方を理解し使う。」の正答率が市の平均を大きく下回っている。原因として、辞書や事典を使う場面がタブレットの活用により激減したことが考えられる。

→漢字辞典などを学習の中で用いて日常から使うことを授業の中で行った。

６年〇問題番号５・６・20 などから適切な漢字を使ったり、慣用句の意味を捉えたりすることができる。

●問題番号９・21 などの結果から、文章を書くことに関する問題に弱いことがわかる。

→パンフレット作り、座右の銘、卒業文集などで書き方や表現の仕方などを学習した。また、教科書の物語文の読解などの学習を通して、自分の考えを書く場面を増やし、友達と共有することで、さらに自分の考えを深められるように指導した。

[算数]

２年〇問題番号３の結果から、１桁＋１桁＝２桁の、加法の基本的な計算ができている。

●問題番号２の結果から、数の変化や規則性を見出すことが難しい。

→具体物や ICT を活用したり、同じような問題を繰り返し解いたりすることで、規則性の見出し方を身につけることができるようにしていく。

●全体的に、学習内容を理解していても、問題文を読み取る力が弱く、問題に正しく答えられないことが多い。

→様々な問題の形にふれ、場面を図に表したり、具体的な物を操作したりして、理解できるようにしていく。

３年〇問題番号２－１「資料をグラフに表す。」と問題番号６「空間図形」では、市平均とほぼ同等である。両問題とも、具体的な物を見て、課題を解く問題であり、イメージがあるものを捉え、操作することはできている。

●問題番号２－２「複数のグラフを関連付けて読み取る。」と問題番号７－14「表を与えられた条件と関連付けて解釈する。」は、市平均に比べそれぞれ、9.3 ポイント、19.8 ポイント低く、課題の内容を考え、与えられた情報を組み合わせるような、深く思考するところが難しい。

→四則演算のような定型的なパターンで解決できる学習を繰り返し、基礎的な学力をつける。その学力をもとに、より思考することが大切になる関連付けの学習などに子どもが集中して取り組めるように指導する。また、問題の意図を理解するために、図を使ったり、言葉を確認したりして、文章を読み取る力をつける。そして、算数の基礎的な力と読む力をもとに、子ども同士での話し合いをすることで思考する力が向上するようにしていく。

４年〇基本的な計算を行い、答えを求めることができる。

●問題番号 12・14 の正答率が、市の平均値よりも下回っていることから、グラフや表の活用に課題がある。普段の生活の中で考えを分かりやすくまとめたり、見やすくまとめたりする機会が少ないことも原因であると考える。

→算数科の授業をはじめ様々な教科で、教員の板書をノートに書き写すことが多いが、その際に自分の考えを図や表を使って自由に表現する機会が少ない。タブレット端末を活用することで、表やグラフで表現する機会を増やす。子どもたちが表や図を活用しやすいようにし、自ら表現できる子を育てていくためにも、年間を通して教員が機会を意図的に設定していく。

５年○問題番号 11・12 の空間図形において、立体図形の構成要素や特徴を捉えることができる。

●問題番号 10「平面図形の複合図形の面積を求める式を判断する。」が市の平均値より大きく下回っている。

→学習の中で、立式する際に図形を複数に分けて考えることを意識させる声かけをおこなった。

●問題番号８「除法について成り立つ性質を基に計算の結果を判断する。」から、除法についての計算に苦手意識を持っている児童が多いことが分かる。立式することができても、筆算や暗算などでミスをすることが散見される。

→諦めずに最後まで計算する力を養っていけるよう、つまずきを再確認した。

６年○問題番号７の平面図形の求積に関する正答率は、概ね横浜市に近い正答率のものが多かった。平面図形の求積に必要な要素を正しくとらえることはできている。

●問題番号 11・12 の正答率が、市の平均よりも大幅に下回っていることから、割合の領域に課題がある。

→どの単元でも普段の生活と結び付けて、学習する場面を多く設け、必要感をもてるようにしてきた。また、割合の単元に関しては、割合の問題に触れる機会を設け、復習をする際に丁寧に取り組み、理解度を高めた。

[社会]

４年○消費者の多様な願いに着目し、商品販売が工夫して行われていることを理解している。

●事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせる。問題番号 20 の正答率が市の平均を大きく下回った。一つの資料をじっくり読み取る力はつきつつあるが、複数の資料を組み合わせ、関連付けて読み取る力が不足していることが原因であると考えられる。

→授業の中で、一つの資料から考える時間と、複数の資料を提示し関連付けて考える時間を、意図的に分けて設定した。また、考えたことを表現する際、どの資料のどこを参照したのかを明らかにすることを通して資料を適切に活用する力の高まりを促した。

５年○問題番号 14「自然災害に備える人々の取り組みについて、理解を深めることができている。」の結果から市の平均値と同等の理解度がうかがえる。

●全体的に、資料から適切な情報を読み取り、問いを解決することが難しい。

→問いを解決する機会を増やした。また、複数の資料を提示することで必要なものを選択できるように授業をデザインした。

６年○設問番号７－27 では市の平均を上回り、事象や人々の相互関係に着目し、考えることができた。

●全体的に正答率が市の平均を下回っていた。資料から必要な情報を読み取り、活用して問題を解答する力を身につけさせたい。特に、年表などの資料をもとに、時間の経過や空間的な広がりを読み取り、理解することに課題があると考える。

→年表を用いて、時間の経過によって起こった変化を読み取る機会を多く設け指導した。その他にも、資料ごとの特徴や活用の仕方を理解できるように継続的に指導していく。

[理科]

４年○実験・観察に関する技能が身についている。

●自然の事物・現象について追究する中で、差異点や共通点を基に、問題を見いだすことができる。問題番号１・５の正答率が市の平均を大きく下回った。事物・現象の差異点や共通点を子ども一人ひとりが見つけられても、学級でしっかり共有できていないことが原因であると考える。問題番号１の選択番号を詳しく見ると、正答の番号を含めて６個選択番号があるが、どれも満遍なく選択していることが分かった。この結果から、事象に対しての気付きや疑問をそれぞれの児童がもつことはできているが、より妥当な考え方や課題に迫る大切な気付きを共有できていない状態である。

→子どもたちが互いの考え方を話し合ったり共有したりする場面をしっかりと確保し、子どもの調べたいことを解決していける単元づくり・授業展開を大切に指導していく。

５年○問題番号４「人の骨や筋肉のつくりと働きについて理解している。」では、市の平均値を上回っている。

●問題番号７「自然の事物・現象について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想を発想し、表現する。」の正答率は、市の平均値より約 17 ポイント下回っている。

→流れる水の働きについて考えていく中で、既習の内容と関連付けて予想をしたり、生活経験を基に考察をしたりすることができるよう、単元を設定した。

６年○問題番号１～４の生命に関する領域の正答率は、概ね横浜市に近い正答率のものが多かった。発芽の実験、その道具の使い方はおおむね理解できている。

●全体的に横浜市の平均より下回っている設問が多かった。特に設問６・８・12・15・16 の正答率が 40 ポイント下回っていることから、思考・判断・表現の観点に課題がある。

→実験を行う際に、やり方を確認するだけでなく、その実験を通してどのようなことを考えるのか、実験結果からどんなことが考えられるのかを意識させ学習を進めてきた。また、学習したことを、日常生活と関連づけて考える機会を設定し、知識だけで終わらないように学習を進めてきた。

[外国語]

６年○ゆっくりはっきり話し、AET の話を聞いて内容を正しく捉えている。

→外国語に慣れ親しむ機会を継続的に設けてきた経験から、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写すことができている。

●すべての項目で横浜市の平均より下回っている。特に問題番号５のゆっくりはっきりと話された二人の会話を聞いて、内容を正しく捉える設問に関しては、正答率が 40 ポイントを下回っている。

→外国語に触れながら会話の内容を正確に捉えるために、日常生活における外国語での基本的な表現を繰り返し指導してきた。

この分析結果をもとに、来年度以降も指導の工夫改善に取り組んでいきます。

・指示されたことに取り組むのではなく、自分で選択・決定して学ぶ姿勢を高めます。
・自分で追究したい「問い」を見出し、自分で考えを深める学びを大切にします。
・自分なりの考え・思いや願いをもって、友達と交流する場面を大切にします。